



息を合わせて入場行進する選手―13日午前、坊っちゃんスタジアム(撮影・柳生秀人)

球音夏熱く

高校野球県大会開幕

第105回全国高校野球選手権記念愛媛大会が13日、松山市市坪西町の坊っちゃんスタジアムを主会場に開幕した。開会式で選手たちはグラウンドを力強く踏みしめて入場行進し、28日まで続く熱戦の始まりを告げた。

(5・23面に関連記事)

選手宣誓は八幡浜工の下久保武紀主将。「大好きな野球が当たり前にできる喜びを一つ一つのプレーで表現し、人々の記憶に残る大会にする」と新型コロナウイルス禍を経験した球児たちの気持ちを代弁した。県高野連の井上伸二会長は「仲間や自分を信じてグラウンドを駆け回り、心から野球を楽しんでほしい」と激励した。

今大会には56校50チームが出場し、部員不足の9校は連合3チームを組んで参加している。

式後、聖カタリナ学園―東温の開幕ゲーム1試合を実施した。宇和島東はコロナ感染拡大防止のため開会式参加を見送った。(門屋駿介)